

# 取場抵抗闘争をつみあげて反撃しよう 勝浦支部が6回定期大会開かる

# 日刊 勤労千葉

83. 12. 7

No. 1511

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二七二〇七

勝浦支部第六回定期大会は、十一月二五日

運動区講習室にて開催されました。大会には、本部より中野委員長、水野副委員長が参加、また、来賓として、中江船橋市議、辻田実衆議院社会党千葉三区候補、新井大原町議がそれぞれ連帯と激励のあいさつにかけつけてくれました。

大会は、役員、代議員及び評議員合わせて90名

### 動労大改革なくして国鉄労働運動の勝利はない — 中野本部委員長 —

を結集、議長に、岩瀬昌利代議員を選出して進められ、鶴岡支部委員長は「国鉄労働運動をとりまく情勢は厳しいが、きびしさにうちかつために組合員一人一人が行動に立ち上り、職場生産点より抵抗闘争をつみあげて反撃していこう」とあいさつ、組合員の決起を訴えました。

中江船橋市議は、「平和を守ることが生活と権利を守る」として、下総基地での闘いを、中曽根内閣の軍備拡大、戦争政策に反対する闘いとして取り組んでいることを報告、また、昇給協定については、30年代までもどす攻撃であり、権利問題での妥協はあり得ないと動労「本部」を批判しました。

中野委員長は、現在の情勢のうち、とりわけ昇給協定についてふれ、ゼニカネの問題と同時に組織問題あるいは権利の問題だとし、動労「本部」、国鉄当局が一体となり、動労千葉や国労への攻撃を集中している実態を明らかにするとともに、当局の協定案がとうてい受け入れることのできないしるものであり、賃金差別による労働者の分断支配であることを具体的に明らかにしました。動労改悪阻止の闘いについては、乗務員の80%を組織する動労「本部」の改革なくしては、闘いにならないとし、年末年始にかけて、先頭になって活動する決意を明らかにしました。また、国鉄に対する様々な攻撃が中曽根内閣の推し進める軍事大国化に向けた反動政策による行革、とりわけその目玉としての「国鉄」であることを見すえ、年末総選挙闘争に決起していく事を明らかにしました。

### 執行部を先頭に闘う方針を確立

つづいて執行部より、経過報告と運動方針、決算と予算が一括提案され討議に入り、昇給協定、

### 支部通信員表

59・2ダイ改、運転保安の闘い、動乗勤・特動手当返納について質疑が出され、本部を含め討論する中から、執行部の提案した運動方針を参加者全体により確認しました。

また、動労千葉第八回定期大会において本部特執となった中村書記長の後任として鶴岡芳弘氏を書記長に選出、江沢脩会計監査員の後任として、渡辺照信氏を選出し、最後に鶴岡支部執行委員長の新役員体制は次のとおりです。

執行委員長	鶴岡直芳	45才	電運士
執行副委員長	照岡清一	34才	電運士
書記長	鶴岡芳弘	36才	電運士
書記次長	鈴木忍	34才	電運士
執行委員	丸島隆直	46才	電運士
	高田興治	44才	検査係
	沢 晤郎	39才	電運士
	田中 広 胖	37才	電運士
	吉野 六 郎	31才	電運士
	高梨 由 一	21才	事務係
会計監査員	渡辺 照 信	33才	電運士



あいさつに立つ鶴岡支部委員長

**12.15**  
・十二月十五日 午後五時  
・千葉県教育会館

「59・2ダイ改」阻止・国鉄決戦勝利  
反動中曽根内閣打倒・総選挙闘争勝利  
国鉄労働者総決起集会